

西洋なし「ラ・フランス」の摘果法

—わい性台木（クインス台）使用樹の着果量と果実の大きさ—

（園試果樹部）

1. 背景とねらい

西洋なし「ラ・フランス」は高級生食用果実として消費が伸びており、大玉果（280g以上）の市場性は高い。しかし、「ラ・フランス」は樹体や果実の生育特性から果実が200～250gと小さく10a当たりの収量も2t前後と少ない。また、着果量が多い場合は糖度低下へ影響がある。

そこで、果実肥大に影響の大きい着果量（摘果強度）について、クインス台「ラ・フランス」を用いて着果量と果実の大きさについて検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

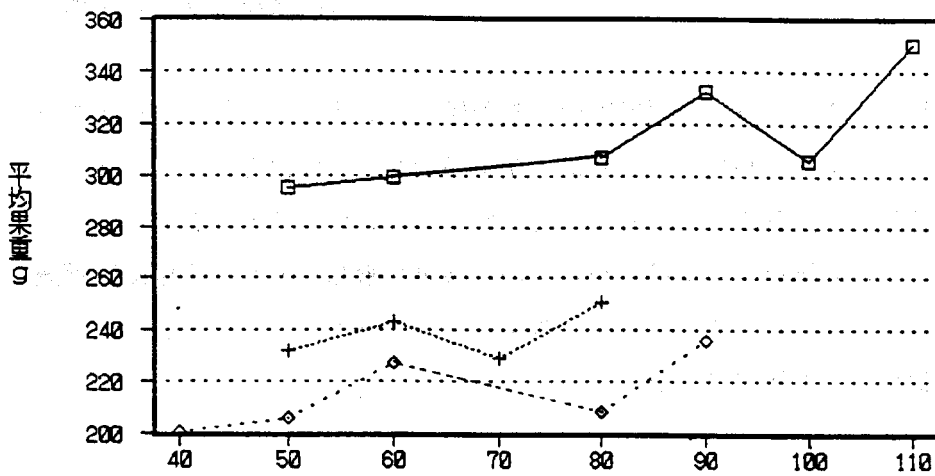
2. 技術内容

1) わい性台使用「ラ・フランス」の10a当り収量の目標を3t、果実の大きさ280g以上、糖度14%以上を目標とする場合、一果当りの葉数60枚以上とする。（平均葉面積が約11cm²であることから、1果当たりの葉面積は約660cm²）

3. 指導上の留意事項

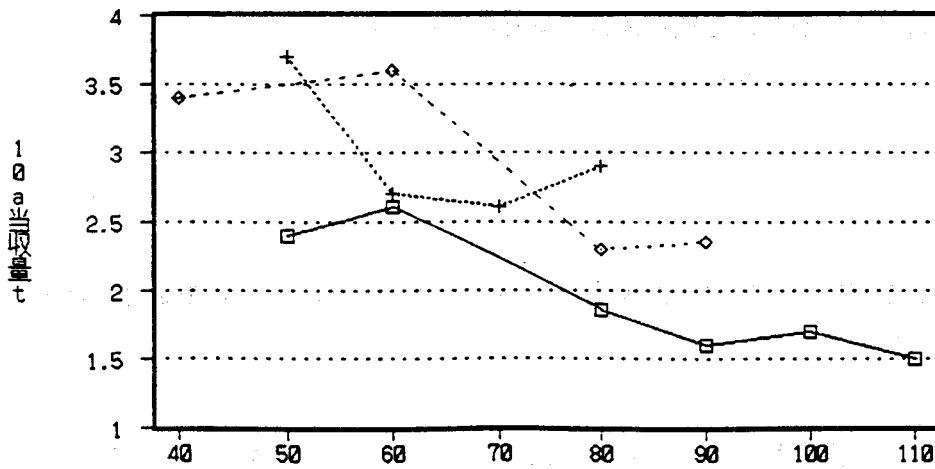
- 1) 摘果時期が遅れると、果実の肥大が劣り、翌年の花芽形成に影響があるので、できるだけ早めに終了する。
- 2) 摘果は荒摘果と仕上げ摘果を基本とするが、仕上げ摘果後も生育不良果はそのつど摘果する。
- 3) 葉数を数える場合、小葉（2～4cm²程度）を除く。
- 4) 葉面積は葉身長×葉身幅と相関係数約0.97と高い一次相関がみられ、葉身長と葉身幅から高い精度で葉面積を推定できる。

4. 試験成績概要



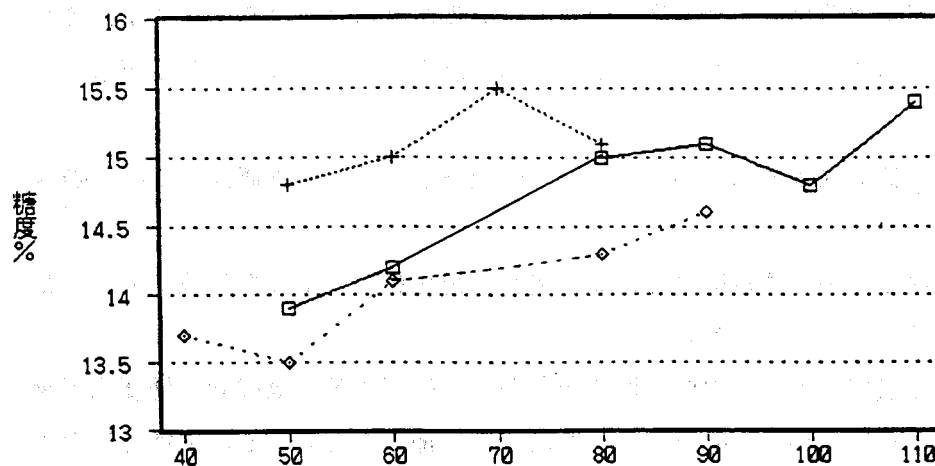
第1図 クラス台使用ラ・フランスの摘果強度と平均果重 (1991-1993, 岩手園試)

葉果比 (1果当りの葉枚数)
□ 1991 + 1992 ◇ 1993



第2図 クラス台使用ラ・フランスの摘果強度と10A当収量 (1991-1993, 岩手園試)

葉果比 (1果当りの葉枚数)
□ 1991 + 1992 ◇ 1993



第3図 クラス台使用ラ・フランスの摘果強度と糖度 (1991-1993, 岩手園試)

葉果比 (1果当りの葉枚数)
□ 1991 + 1992 ◇ 1993